

年月日

17

03
29ペー
ジ

19

NO.

成長基盤 3年で築く

新報国製鉄が2017年12月期から3カ年の中期経営計画をスタートした。16年度は過去最高の経常利益を計上し、リーマン・ショック後のどん底からの構造改革を完了。ようやく成長戦略を描くステージに移行した。成瀬正社長はあえて29年度に売上高100億円という長期目標を掲げ、中計3カ年をその基盤づくりに位置付ける。

—中計最終年度の19強調されています。
年度ではなく、さらに10年先の29年度目標をることを考えた。当社

新報国製鉄社長

成瀬 正氏



低熱膨張合金、米など開拓

も目を向けていきた
い。低熱膨張合金では
世界トップメーカーだ
と自負している。英語
で論文を発表すること
も必要だ。この3年で
米国進出へのきっかけ
をつけみたい

—研究開発に相当

—中計ではM&A

はリーマン・ショック
で大変な痛手を負い、
売上高は約70億円から
20億円以下に、人も半

分になった。最高益に
—主力の低熱膨張合

金では航空宇宙産業を
かかりすることが大事。
事。この3年で基盤を
築き、次の10年で飛躍
を期す

今後は米国など海外に
積されている。これが

なったからといって浮
かれず、もう一度、原
点から会社のあり方を
に据えています。

考えた。まず基礎をし
つかりすることが大
事。この3年で基盤を
築き、過去3代の

「宇宙航空研究開発
機構（JAXA）の望
遠鏡の架台向けに、好
い合金を納入できた。
その後は米国など海外に
積まれています。

（合併・買収）にも触
れてています。

「研究開発費は年間
1億円以上、社員の約
1割が研究者だ。必要
な研究設備投資もすべ
て認めた。過去3代の

業は多い。例えば、す
べてのコラボレーションを
行うことではないが、
に磨く技術は非常に精
緻だ。こうした技術と
うため、チタンを販円

力を入れています。
（合併・買収）にも触
れています。

磨会社を事業継承し
た。内視鏡の部品に使
用される。

記者の目 指揮すべき仕事まだ多い

1月1日付で三重県川越町の
製造子会社を吸収し、09年に着

手した一連の構造改革が一段
落。本社工場の大半は商業施設
となり、機能は研究開発やファ
ブレスの素形材事業の拠点に生
まれ変わった。ただ、半導体・
液晶産業向けの比重が高い状況は同じ。新
しい柱を早急に立ち上げるため、人材育成
や設備投資、協力企業との連携など成瀬社
長が指揮すべき仕事はまだまだ多い。

(編集委員・大橋修)